

# 大連・解放四十年史

董志正・主編

昨今流行のレトロ・ブームは、いまや海外版とも言える状況を呈している。「懐かしき大連」「麗しの大連」「アカシヤの大連」等々、大連がホットな注目を集めている。大冊の本書があえて訳出された背景に、こうした「ブーム」があったのかもしれないが、本書の内容は、いた

って堅気なものである。いわば大連市当局（「大連四十年」編集委員会）が中華人民共和国建国以後の大連の変貌過程を、概況・歴史、産業・経済、教育・文化、政法・社会的分野ごとに描いて編纂した一種の総覧だと言えよう。その基本的な視点は、今日

## 過去と現在を知る有益な手引

のなかで「経済技術開発区」として中国経済の中核になっただけでなく、日本からの解放を勝ちとった人民が、人民政府のもとで社会主義建設に邁進したける。このような大連は、日清・日露戦争以来、日本の植民地時代から戦後の中ソ抗争期を

含めて、東アジア国際政治史の焦点でもあり、今日では中国東北の代表都市として、沿岸開放政策の象徴としての地位を担っている。とくに日本と大連との経済・貿易関係が、最近きわめて緊密なものがあり、先般も大型の経済ミッションが大連を訪問しただけに、本書は、大連の過去と現在を知る手引き書として有益であろう。



も多々あるけれど、その点を補って本書の価値を高めているのは、わが国における中国語学界の最高権威、鐘ヶ江光氏があえて監訳の労をとられ、訳者が全力投球していることであろう。

大連と中国の発展に関心をもつ読者に座右の書が加わったと言ふべきか。

（新評論・一〇〇〇〇円）  
東京外大教授 中嶋嶺雄